

※クリックすると記事のページを開きます。

①留学生交流イベント実施報告（2018年5月）	2
②琴平オンラインバスツアー実施報告（2020年6月）	4
③日本就職入門 Webinar 実施報告（2020年6月）	9
④音声編集・ラジオ番組制作ワークショップ実施報告（2020年7月）	11

①留学生交流イベント実施報告（2018年5月）

2018年5月30日に、本学の交換留学生（カンボジア人2名、ラオス人3名、ミャンマー人3名）の交流を目的として、東京競馬場内にあるJRA競馬博物館に行ってきました。



JRA競馬博物館前にて

参加者は、

シム・ダネーさん（カンボジア、2017-2018年度交換留学生）

ラオ・ソクヘンさん（同上）

コムア・ファイダーくん（ラオス、2017-2018年度交換留学生）

スヴォニア・ヴンカンチャンくん（同上）

サミッター・ムンアットアサーさん（同上）

ポー・ピーエー・ヘイン・テツさん（ミャンマー、2017-2018年度交換留学生）

ウイン・ユー・ナインさん（同上）

テー・ス・ラインさん（同上）

バン・ソバタナ先生（カンボジア語客員教員）

タムマウォン・スリカン先生（ラオス語客員教員）

サイ・チョー・タウン先生（ミャンマー語客員教員）

鈴木玲子先生（世界展開力強化事業（ASEAN）責任者、教授）

寺井淳一（世界展開力強化事業（ASEAN）コーディネーター）

以上の13名でした。

JRA 競馬博物館では、まずはじめに、「馬を知る」プログラムで、学芸員の方に馬に関する講義をしてもらいました。理解しやすい日本語で話してくれて、学芸員の方が出題するクイズにも、きちんと答えていました。

その後は、自由に館内を見学しましたが、実際にレースで使用されている発馬機において、スターターとジョッキーの体験をしたり、著名なイラストレーターである天野善孝氏の作品を鑑賞したり、馬について学び、博物館の展示方法について知る良い機会となりました。

博物館のあとは、乗馬センターにて、ホースショーを見学しました。お座りをしたり、横になって膝枕をしたり、斜めに走ったりと、普段見ることのない、人馬一体となった姿に皆さん釘づけになりました。続いて乗馬センターを見学し、馬の世話をしている様子やミニチュアホースなどを見ました。その

後敷地内の公園（日吉が丘）に行きましたが、ここの遊具で生き生きと遊んでいる留学生の姿がとても印象的でした。最後は飛田給まで帰り、皆で昼食をとりました。豚キムチ定食がとても人気でした。

はじめは各言語でかたまる場面も見られましたが、客員教員の先生方の絶妙な呼びかけにより、徐々に打ち解け、最後は他国の学生同士が積極的に会話をするようになりました。日本での生活もあとわずかですが、これを契機に、これまであまり接点のなかった3国の留学生が、互いに交流を持つようになれば良いと思います。

最後になりましたが、今回の見学を引き受けて下さった JRA 競馬博物館および乗馬センターの皆さま、どうもありがとうございました。



「馬を知る」プログラムを受ける留学生たち



乗馬センターにて

寺井淳一記

②琴平オンラインバスツアー実施報告（2020年6月）

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、本学では春学期の授業が全てオンラインとなり、本事業の長期受入学生も外出できない日々が続いておりました。また、春休みを利用して国内旅行を企画していた学生も多く、それが叶わなくなり、残念がっている様子が見られました。それぞれの帰国にも多くの不安を感じている時期でしたが、最後に日本を体験する機会として、また日本での最後の思い出作りの場として、オンラインでツアーを実施していただける旅行業者を探しました。そのような中、すでにオンラインバスツアーの開催実績のある琴平バスに相談したところ、快く引き受けてくださり、今回のバスツアーが実現しました。今回は準備の関係で、香川県の琴平をオンラインで訪れることにしました。

東京（羽田空港）から香川県（高松空港）までの移動

日時：2020年6月27日（土）9時30分～12時

場所：オンライン（Zoom）

プランナー：山本紗希氏（琴平バス株式会社）



参加者：ASEANの交換留学生10名、ロシアの交換留学生1名

行程：高松空港集合－金刀比羅宮表参道街歩き－「金陵の郷」見学－「金丸座」見学－「中野うどん学校」見学－うどん打ち体験－ツアー終了



参加者のもとに送られた品々

ツアーに先立って、うどん打ち体験に使用する巻物うどんや琴平の名産品、パンフレットなどを、体験学習の教材としてツアー参加者のもとに送ってもらいました。

ツアーは高松空港から出発し、琴平に向かいました。移動中に香川県の人口や面積、名物などの紹介があり、うどんの店舗数を問うクイズも出題されました。



移動中の車内から見える景色

琴平到着後は、観光案内所の Kotori にいる八木ガイドと中継を結んで、琴平町と当日見学する施設について説明を受けました。



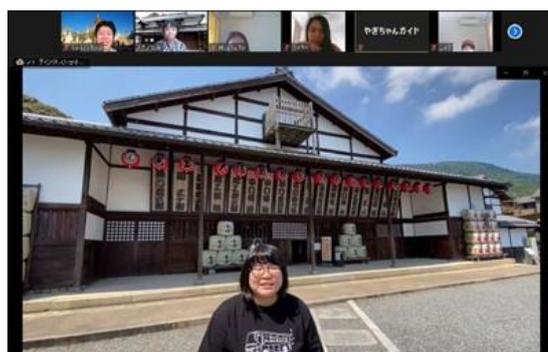
「Kotori」にいる八木ガイドの説明（中継）

途中電波が悪く、中継が切れる場面もありましたが、少し街歩きをした後、琴平町で 231 年前から酒造りをしている「金陵の郷」を見学しました。中継にて軒下にある杉玉や広場中央にあるご神木の楠を見学した後、資料館にて昔の酒造りの工程と道具の説明を受けました。また、録画にて普段は公開していない琴平蔵を見学し、現在の酒造りについても学びました。さらに酒粕から甘酒が作られることを学び、金陵の酒粕で作った甘酒を試飲しました。初めて甘酒を飲んだという学生もいました。



「金陵の郷」の見学（中継と録画）

「金陵の郷」見学の後、日本で現存する最古の芝居小屋である「金丸座（旧金毘羅大芝居）」に移動しました。まず、入り口が観客の種類によって大木戸、鼠木戸、御用木戸の 3 つに分かれていたという説明を受けました。続いて、役者の通り道を順に巡



「金丸座」の見学（中継と録画）

り、座席のこと、花道や舞台の仕掛けについて学びました。また、舞台裏にある楽屋も見学し、役者の種類によって部屋が異なることを学びました。最後に、奈落と呼ばれる地下を見学し、舞台や花道での演出に用いられる廻り舞台やすっぽんの構造を学びました。

その後、各自がうどんの準備（湯を沸かす、まな板と包丁の用意など）をする休憩時間を挟んで、「中野うどん学校」に移動しました。讃岐うどんは足踏みが大事ということで、うどん学校の先生とガイドが「さぬきうどんゆさぶり音頭」を歌って踊りながら、足踏みをしてみせてくれました。

それから、事前に送ってもらった「巻物うどん」を各自で取り出して、好きな太さに切って、みんなで集合写真を撮影しました。うどんを茹でている間に、参加者からリクエストのあった音楽を流しました。その後、出来上がったうどんをみんなで一緒に食べました。みんな、おいしそうに食べていました。途中、それぞれの国にうどんに似た料理はあるかという話題で盛り上がりました。



足踏みダンス（中継）



きれいに切られた留学生のうどん

最後に、再び八木ガイドが登場し、琴平の銘菓である「灸まん」とそれを売っているお店を紹介してくれました。荷物にも同梱されていましたので、みんなで食べながら説明を聞きました。それから、金刀比羅宮の参道を歩きながら、昔は宿泊施設だったところが今はうどん屋になっているところがあるなど、幾つかのお店を紹介してくれました。参加者からはとても魅力的なツアーだったので、行きたい気持ちが強くなったという感想が聞かれました。また、お勧めのお土産として、和三盆やだし醤油などの紹介がありました。



参道の紹介（中継）

説明は全て日本語で行われたので、留学生にとっては理解が難しい場面もあったかもしれませんが、ただ、ツアー中にチャットを通じて英語で捕捉説明を入れたり、事前に見学先の情報をスライドにまとめて共有したりしたので、大部分は理解できたと思います。また、プランナーの山本さんとガイドの八木さんは、平易な日本語を選んでゆっくり話してくれたので、内

容の理解に大きな問題はなかったものと思います。ツアー後に実施したアンケートでも、ほとんどの学生が説明がわかりやすかった、もしくはふつうと回答しており、また話す速度もふつうという回答が多くみられました。

アンケートで良かったプログラムとして一番多くの学生が挙げていたのが、「中野うどん学校」でのうどん打ち体験でした。うどんの足踏みダンスやうどん切りなど、中継によりいっしょに参加でき、また相互交流ができるプログラムが良かったようです。またガイドの八木さんやプランナーの山本さんの案内も高評価でした。ツアーに参加した感想としては、本当に旅行に行っているように感じたという回答が多く、また実際に行ってみたくなったという回答も多くみられました。また、日本酒の製造工程やうどん打ちについて勉強になったという回答もありました。

ツアーの良かった点としては、以下のような回答がありました。

・このツアーに参加して、オンラインですが、みんなと香川にいるように感じました。ツアーガイドはとても元気で、私もそうありたいと感じました。紹介された場所はどれもとても良かったので、日本酒やうどんや歌舞伎について、十分な知識を得ることが出来ました。

・うどんを作るのはとても楽しかったです。

・自分の部屋にいながらうどんを作っていることに、とても興奮し、面白かった。

・どこにも観光に行けない状態だったので、オンラインツアーがあって嬉しかった。ツアーガイドさんは、とても優しく楽しかった。

改善点としては以下のようなものが挙げられました。

・ときどきガイドのネットワークが良くなかったです。

・カメラを持ちながら、ガイドさんにもっと周辺を案内してほしい。前だけでなく、後ろを振り返った時に見える景色も見たい。

・一つだけアドバイスしたいのは、もう少しツアー時間をかけた方が良いということです。また、うどん打ちの他にリアリティのある活動がもっとあったらよかったです。

また、今後オンラインツアーで行ってみたい観光地としては、沖縄、北海道、大阪、奈良、京都、河口湖、さらに「富士山の上」という回答もありました。オンラインツアーで実施したら良いと思うアイデアを聞いたところ、参加者が一緒にゲームをしたら良いという回答がありました。オンラインツアーのメリットとしては、遠くからでもツアーに参加できる、移動中に疲れることがないから楽、食べながら参加できる、家にいながら楽しめるなどの回答がありました。また、自国でのオンラインツアー

開催の問題点としては、多くの学生がインターネット接続の問題を挙げていました。



乗車記念の集合写真

コロナ禍により、様々なことが予定通りに行きませんでした。このような状況にならなければ、現在のようなオンラインツアーの展開も、ツアーの利用もなかったと思います。また、忙しい中、本学の細かな要望に柔軟かつ丁寧に応えてくださる琴平バスとの出会いもなかったと思います。録画や中継の切り替えの円滑さ、事前収録した映像に対しライブで行うガイド、参加者がいっしょに参加するイベントなど、リアルにツアーに参加しているように感じさせる多くの工夫が凝らされており、コロナ禍の先にある新しい交流の可能性を見ることができました。この場を借りて、本学のためにオンラインツアーを実施してくれた琴平バスに、深く御礼申し上げます。

世界展開力強化事業（ASEAN）コーディネーター

寺井淳一記

③日本就職入門 Webinar 実施報告（2020年6月）

本事業の長期受入学生に対するキャリアパス支援の一環として、3月にVPI職業興味検査を行いました。その際に実施したアンケートでは、約半数の学生が日本での就職を視野に入れていることが分かりました。それと同時に、日本での就職に際し、職場で求められる日本語力や日本独特の文化や習慣に不安を抱いている学生もいました。これらの不安を少しでも解消するため、また



本学用にアレンジしていただいたスライド

日本の就職活動スケジュールなどの基本的な情報を提供するために、留学生への就職支援を行っている Connect Job に協力を依頼し、すでに開催実績のある日本就職入門 Webinar を本学用にアレンジして実施していただきました。

日時：2020年6月5日（金）16時～17時30分

場所：オンライン（Zoom）

講師：板倉朱音氏（フォースバレー・コンサルジュ株式会社）

参加者：ASEANの交換留学生10名、ロシアの交換留学生1名、冬季プログラム日本語講師（中国の大学院生）1名

内容：日本社会の現状、母国就職との違い、日本の就職活動スケジュール、インターンシップ、選考の流れ、SPIなどの適性検査の実例紹介、面接での質問内容、日本企業の働く環境、求められる日本語力など

ウェビナー中に、参加者と講師との間で、以下のような質疑応答がありました。

質問1：適性検査に関して、合格ラインはあるか、苦手な分野は練習した方がよいかなど。

回答1：適性や性格を知ることが多く、合格ラインを定めていないことが多い。検査の内容は日本人でも難しい内



日本特有の働く環境

容が含まれる。企業の中には、留学生限定の選考会を開催し、留学生を積極的に採用しているところもあるので調べてみるとよい。

質問 2：求められる日本語力や英語力に関して、ビジネスレベルや JLPT の N1 相当の日本語力が求められるか、入社後に日本語研修が受けられるか、語学ができないと採用に不利になるかなど。

回答 2：一般的に N2 レベルが求められる。ただし特殊スキルがあれば語学レベルに関わらず採用されることがある。働きながらも日本語を習得できる。また高い語学力がなくても、日本と取引のある仕事に就くことで日本企業への就職の可能性が生まれる。

以上の質疑応答を通して、講師からは、自身の能力に合ったルートで応募すると良いとのアドバイスがありました。

ウェビナー後に実施したアンケートの結果によると、Connect Job のサービスの中で利用したいものとして、キャリアカウンセリング、面接・ES 対策、自己分析・業界研究セミナー、留学生限定の企業説明会の情報を挙げる学生がいました。



求められる日本語力

東南アジアでは、日本とは異なり、大学卒業後に就職活動を始めることが多いと聞きます。そのため、普段就職について考える機会はありません。今回は、日本の就職についてあまり知らないという留学生に、基礎的な情報を伝え、また就職について考える機会を提供することができて良かったと思います。ウェビナーでも触れられていた通り、日本で外国人留学生が就職するためには多くの困難が伴いますが、各学生が希望する未来をつかめるように、今後も必要な支援を行っていききたいと思います。

最後になりましたが、本学のためにウェビナーを実施してくれた Connect Job に、この場を借りて、深く御礼申し上げます。

世界展開力強化事業（ASEAN）コーディネーター

寺井淳一記

④音声編集・ラジオ番組制作ワークショップ実施報告（2020年7月）

本事業で受け入れている交換留学生に対し、希望職種に関するアンケートを実施したところ、映像や音楽に関する仕事に興味のある学生が複数名いたので、今回のワークショップを企画しました。講師は日本を拠点に BBC ラジオの DJ であり、音楽キュレーターとしても知られているニック・ラスコム氏に依頼しました。学生にラジオ番組を制作して発表してもらうため、1週間空けて、合計で2回、オンラインで実施しました。講義は全て英語で行い、内容はBBCで受けたトレーニングを模して実施していただきました。

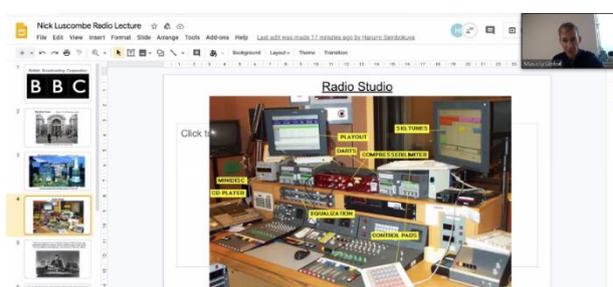
・1日目

日時：7月3日（金）

実施時間：16時～17時30分

参加者：交換留学生5名

内容：ラジオの歴史、技術革新、就職までの流れ、音声編集の課題についての説明と質疑応答



1日目の講義の様子

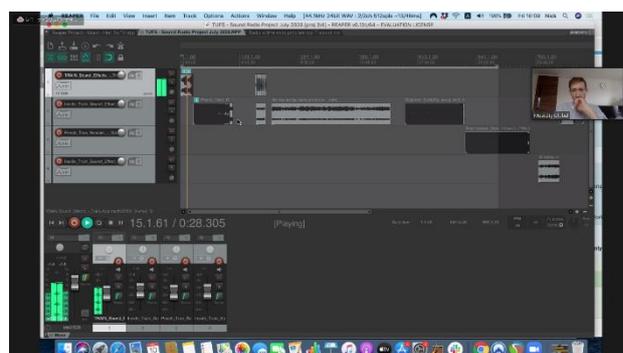
・2日目

日時：7月10日（金）

実施時間：16時～17時30分

参加者：交換留学生5名

内容：各学生が制作した作品を全員で試聴、作品のコンセプトや音源の確認、制作に際し難しかったこと、作品制作に関する質疑応答、講師からの各作品へのフィードバック、編集ソフトの使い方の確認等の実技指導



2日目の指導の様子

（音声編集アプリケーション「Reaper」の操作画面）

【留学生の作品紹介】

・テッスティンさん

<https://www.youtube.com/watch?v=qcqG5BljCfU&t=16s>

コンセプトを考えるのに時間がかかった

オンラインで音源を収録

独自の雰囲気があるとの講評

・トリー・スライレアクさん

<https://www.youtube.com/watch?v=fBfbbn9oyac>

雪を踏みしめる音は自分の持っていた音源を使用

ギターで作曲した曲は、iPhone の機能を利用

雪の音が古いドーナツ盤用レコード針の音のよう、ミステリアスとの講評

・ミッツネイチタウンさん & チョウティーリアウンさん (2名合作)

https://www.youtube.com/watch?v=OzkF3RjHz_w&t=105s

アニメソングのランキング番組を作成、DJ は 2 人が交代で担当

原稿を書き、YouTube Studio で制作、完成まで 9 時間かかったが楽しかったとのこと

情熱を感じる楽しい作品との講評

(※公開にあたり、事務局にて一部編集しております。)

・メイテツパインチョーさん

<https://www.youtube.com/watch?v=o5uVASMID4w>

YouTube と独自の録音が音源

「私の一日」のようなサウンドダイアリー風の作品

1940 年ごろ発祥のミュージック・コンクレート (musique concrète) 風との講評

講師からは、スマートフォンで録音する際の雑音を防ぐ方法、音声編集アプリケーション「Reaper」の使い方、お薦めのアプリケーションの紹介などの助言がありました。さらに、新卒時にすぐに制作の仕事に就けなくても、周辺業務に従事して人脈を広げながら業界を学び、徐々に自分がやりたい仕事にキャリアアップする方法もあり、また Podcast や YouTube でも個人の作品を簡単に発表できる時代なので、もし違う業界に就職したとしても、副業として好きなことを続けていながら副収入を得る道もあるかもしれないとの助言もありました。



スマートフォンで録音する際のアドバイスをしている様子

参加した留学生の感想（抜粋）は以下の通りです（一部、英語から翻訳したものや文意が変わらない範囲で文言を訂正した箇所があります）。

・私はこのワークショップにとっても満足しています。音声編集の経験はありませんでしたが、このワークショップのおかげで音声編集について良い経験を得ることが出来ました。音声編集がとても好きになりました。

・私はこのワークショップが本当に好きです。私は歌や声に関して学びたいと思っています。リラックスして楽しむことが出来ました。ただ、アプリケーションの使い方は少し難しかったです。

・私はこのワークショップが本当に好きです。最初に、ラジオ局とラジオ番組について説明し、次に Reaper というアプリケーションについて紹介してくれました。Reaper を使って自分でラジオ番組を制作しました。このアプリケーションを使った後、一度しか使ったことがなかったので、分からないことがたくさんありましたが、たくさん質問することが出来ました。ですから、個人的にはこのようなワークショップが大好きです。実習した後に説明していただける、この形式が私はとても好きです。

・とても満足しています。音楽を聴くのが好きでしたが、このワークショップのおかげで今は自分で音楽や歌を作りたいと思っています。ニックさんが出した課題の音声を作ったら、とても驚きました。何度も聴いてみましたが、その度に「ええ！私にも出来る。とても良い音だ。本当に大好き！」と感じました。最初は複雑だと感じましたが、ニックさんの説明を聞いてみると、

それほど複雑ではないと思うようになりました。私が実際に作業を始めたとき、ニックさんが言ったように、簡単に出来ました。

改善点としては、2回では少ないという意見が多く見られたので、今後同様のワークショップを実施する機会があれば、この点を考慮して、より充実したものにしたいと思います。

講師がフレンドリーに一人一人へ語りかけ、リラックスした雰囲気の中、学生は積極的に発言し、熱心に取り組んでいました。本来であれば、スタジオツアーや音声収録の現場も見学してほしかったが、コロナ禍により、今回はオンラインでの実施となりました。アンケート結果では、学生の満足度が非常に高く、充実したワークショップになりました。今回のワークショップは英語での実施となりましたが、全員よく理解し、積極的に発言していました。実際に音声編集や映像編集分野での就職に向けて動き出した学生もいて、学生にとってとても有益な学習機会を提供することが出来ました。

最後になりましたが、今回のワークショップを快く引き受けてくれ、プログラムの内容にも多くのアイデアを提供してくださったニック・ラスコム氏に、心よりお礼を申し上げます。

世界展開力強化事業（ASEAN）コーディネーター

寺井淳一記

（本事業の事務補佐員による原稿を基に作成しました）